

今号は医歯連携担当 病院長補佐に寄稿いただきました。

本年度5月より、徳島大学病院病院長補佐を拝命しました歯周病科の湯本浩通です。趣味や特技等を紹介するコーナーへの原稿執筆依頼とのことですが、皆様にご紹介できるほどの特技は全くありません。趣味と言えば、学生時代に所属していたサッカーくらいでしょうか。私が歯学部学生の頃は、現在のリーグも無く、芝のグラウンドもほとんど無く、土のグラウンドで泥臭く部活動を行っていました。当時は、医学部と歯学部が合同で練習や試合を行っておりました。歯学部を卒業して大学院生となった時に、華々しくリーグが開幕したことを鮮明に覚えております。その頃から日本もようやくワールドカップへ出場できるようになりました。

昔話はさておき、学生時代には毎年夏休み中に全国29歯学部・歯科大学が参加するAll Dentalという大会が開催されます。卒業後も、2,3年に一度、OB戦が開催され、昨年は、西日本から6大学が参加して、大阪府堺市にあるナショナルトレーニングセンター「J-GREEN SAKAI」というクラブハウスや宿泊施設等が備わった立派な施設で開催されました。歯科医師のオジサン達がプレーするには

もったいない程の施設です。しかし、若かりし時のイメージを持ってグラウンドに立つと、全く体が動かず、頭で考えて思い立ったことが、足に伝わるまでにかかなりの時間がかかることに衝撃を受けます。学生時代は、技術があり上手な人がチームの中心となるのですが、OBになれば技術は関係なく、走れる人・体力がある人がチームの中心になります。サッカーは、11人で行う競技で、それぞれのポジション(役割)やチームとしての戦術・方針が一応決められています。試合では、その方針通りに進まないことがほとんどで、自分の役割以外のこと、チームメートをサポートしなければならない場面が多々訪れます。医療でも、チームとして診療等の様々な業務を行わなければならない、このことはサッカーなどのチーム競技と通じるものがあると感じています。

サッカーを行った後は、必ず筋肉痛があり、いつも後悔の念に駆られますが、広いグラウンドの中で声を出し合って体を動かすことは気持ちが良いものです。今後も健康増進・体力維持のため？に体を動かす時間を確保して、ケガをしない程度にスポーツを楽しみたいと思っています。

医歯連携担当 病院長補佐 湯本 浩通



歯学部OBの先生方と

このコーナーでは、病院で取り組んでいる様々な事業を紹介します。

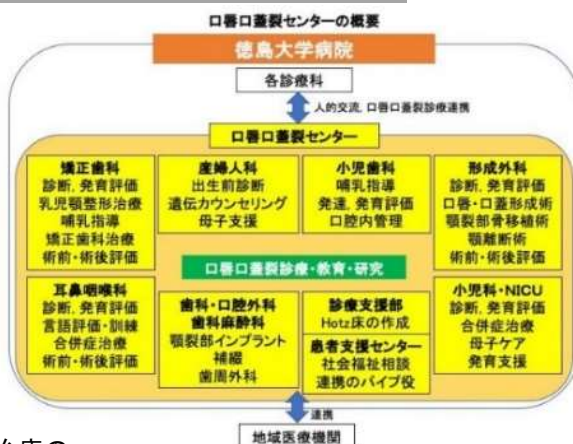
平成31年4月に四国で初となる口唇口蓋裂センターを開設いたしました。唇・顎・口蓋裂は、一般の診療所、病院での妊婦健診にて確認されることが多く、徳島県下で出生した患者の多くは、特定機能病院であり総合周産期母子医療センターのある徳島大学病院に紹介されています。口唇口蓋裂の治療においては医科の多くの診療科と歯科診療科が連携することが必要であり、四国を見渡しますとこのような診療体制が築かれる医療機関は少ない状況です。四国四県で出生した患者が当院の口唇口蓋裂センターを受診していただき、今まで以上に四国全体の医療に貢献できれば良いと考えています。

当院ではこれまでも、医科(産婦人科、小児科、形成外科、耳鼻科など)と歯科(矯正歯科、小児歯科、歯科口腔外科など)が連携しながら、唇裂・口蓋裂患者さんの診療に対応してきました。

これからは、本センターを中心として、産前や産後の診察から、手術治療の計画や術後フォロー、矯正治療や小児歯科治療、言語訓練やその評価などについて、更なる綿密な連携が可能となりました。

本院の大きな特徴は、四国の大学病院で唯一の歯学部が併設されていることです。そのため、矯正歯科、小児歯科、歯科口腔外科に多くの専門医とスタッフが在籍しており、歯並びや噛み合わせなどに関して最新の専門診療を受けることが可能です。医科では、出産前後は産婦人科、全身状態は小児科、発音などは耳鼻科が診察し、そして審美的な面も合わせて形成外科が手術と診療を行うなど、専門医による総合診療を行います。また、患者家族用のリーフレットも作成して、出産前後あるいは手術前後における家族の不安な感情に対して、看護スタッフから丁寧な説明が行える準備も行っています。本センターの円滑な運営に対して、これからも職員の皆様にご協力をいただきますようお願いいたします。

口唇口蓋裂センター センター長 橋本 一郎



口唇口蓋裂センター
スタッフ写真

NEWS・イベント大募集！

「Harmony」は、病院職員を対象に、院内情報の伝達や職員のコミュニケーションの活性化などを目的として発行しております。行事やイベントなどのNEWSや院内で周知してほしいTOPICSなどがありましたら、どんどん病院総務課広報・企画係(bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp)までお寄せください。また、「Harmony」で取り上げたら良いと思うテーマなど、ご意見・ご提案お待ちしております。





病院新採用職員のご紹介

脳神経内科
福島 功士 医員



令和2年度より徳島大学病院脳神経内科医員として勤務しております福島功士と申します。3月までは奈良県吉野郡にある黒滝村という人口700人程の過疎化の進んだ小さな村にある診療所で、2年間勤務しておりました。僻地診療所から大学病院と、環境が180度異なる状況での勤務であり、最初は戸惑うことも多かったですが、色々な方に手助けしていただきながら、少しずつ仕事にも慣れてきたところであります。

徳島大学病院脳神経内科は筋萎縮性側索硬化症を始め、神経難病の患者が多く集まっており、難しさを感じることも多いですが、同時にやりがいも感じております。

私は電気生理検査を中心に現在勉強中であり、中でも神経筋エコーの分野をより極めていきたいと思って頑張っています。まだまだ認知度の低い分野ではありますが、神経・筋疾患の診断において非常に有用であると感じております。

まだまだ未熟ではありますが、脳神経内科医として知識・技量に優れた医師となるべく、また患者さんに寄り添った医療をしていけるよう日々精進してまいりたいと思っております。至らない点も多いかと思いますが、何卒よろしく願いいたします。



検査部
寺本 継脩 臨床検査技師



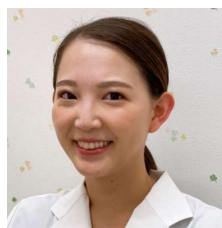
令和2年4月より入職し、医療技術部・臨床検査技術部門・検査部へ配属になりました、寺本継脩と申します。検査部では採取した血液や尿などを調べる「検体検査」と、患者さんに電極などを装着して直接調べる「生理機能検査」を行っており、検査項目ごとに各部門に分かれ正確な検査結果を迅速に提供しています。勉強すべきことが多く入職当初から学びの毎日で先輩方からご指導いただき、日々業務に取り組んでいます。

休日は家で映画や動画を見たり、最近は2000ピースのジグソーパズルをしたりなどインドアな生活をしています。

まだまだ未熟者ですが、毎日の学びの機会、姿勢を大切に成長していけるよう今後も鋭意努力してまいります。



小児歯科
宮寄 彩 助教



令和2年度より徳島大学病院・小児歯科・助教として着任いたしました宮寄彩と申します。子供たちの成長を、点ではなく線で間近に見ることができる小児歯科に魅力を感じ、入局いたしました。

小児歯科では、子どもたちの口腔内の予防処置や齲蝕治療はもちろんですが、それに加え咬合誘導(歯列不全の改善)やMFT(口腔筋機能療法)、摂食嚥下指導も行っております。また、昨年度に設立されました口唇口蓋裂センターにも参加しており、他科と連携して家族をサポートしております。

まだまだコロナ禍であり、予断を許さない状況が続きますが、患者さんとの心のソーシャルディスタンスはゼロで日々精進してまいりたいと思います。



総合歯科診療部
花輪 茂己 臨床研修医



令和2年4月より徳島大学病院にて歯科医師臨床研修をしております花輪茂己と申します。

研修は一年間の総合歯科コースを選択しています。総合歯科診療部での臨床研修に加え、歯科麻酔科および歯科放射線科でローテイト研修、補綴物作製のための技工作業などを通じて一般的歯科診療についての広範囲な歯科治療の基本の習得を目標として、日々研修に励んでいます。

治療前は毎回指導医の先生方と相談し、どのように治療を行っていくか、どのようなポイントに注意すればよいのかななどを丁寧に指導してくださるため安心して治療に臨めます。

未熟な部分も多くありますが、日々様々なことを学ばせていただき充実した毎日を過ごしています。患者さんの心に寄り添った治療を行える歯科医師を目指して日々精進してまいります。



東病棟4階ICU
福永 紗矢 看護師



令和2年4月より東病棟4階ICU配属になりました、福永紗矢です。私は超急性期の看護を学び経験できることに魅力を感じ、ICUでの勤務を希望しました。

ICUでは、患者さんへの日常生活援助や医師の診療介助、生命維持のための医療機器や薬剤の管理などのため幅広い知識と技術が必要です。日々自己学習に励み看護の振り返りを行い、患者さんやご家族の立場にたった看護ができるよう努めています。また、人工呼吸器装着のため意思疎通を図ることが困難な方が入室されています。そのため、表情やバイタルサインから得られる情報をアセスメントし、患者さんの思いに寄り添える看護ができるよう心がけています。患者さんの表情が和らいだり病状が安定したりすると、患者さんのために何かできたかな、とやりがいを感じます。まだまだ分からない事が多いですが、先輩方の温かな人柄や指導に支えられ頑張っています。日々精進していきますので、よろしくお願いします。